

第 2 回
第 4 次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会
会 議 要 録

令和 3 年 3 月 25 日（木）

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

日 時 令和3年3月25日（木）午前10時から午後0時2分
会 場 市庁舎 西棟4階 811会議室
出席委員 宇田川みち子、大屋朋代、熊田博喜、小久保渉、田中邦忠、千種豊、深田榮一、矢島和美
事務局 秋山常務理事、田村事務局長、高橋事務局次長、横山担当係長

（午前10時 開会）

1 開会

- 事務局 開催の挨拶の後に、広報に使用するため委員会の様子を写真撮影することへの協力依頼がなされ、特に異議はなかった。
- 事務局 資料確認を行った。
- 委員長 この委員会は、計画の進行管理が一つのミッションである。今後、活動への取り組み自体がどうなるのか分からないが、「当面どのような活動状況にあるのかしつかり確認し、取り組みへの評価やアドバイスをどのように行っていくかという基本的な部分を検討する」ことが重要なミッションでもある。計画をどのように評価するかについては、意見が分かれているところがあるが、それらを踏まえて武蔵野市らしい評価の仕方を検討していければと考えている。

2 報告事項

（1）会議要録について

- 事務局 会議要録としているがある程度の逐語も含め意見の内容がより具体的に見える形にし、また、発言者氏名の表記は「委員長」「副委員長」「委員」「事務局」等とした。
- 委員 「です、ます調」か「である調」に統一した方が良い。
- 委員長 一般的には「である調」か。内容修正があれば、3月末までに事務局へお知らせいただきたい。語尾の修正後に確認いただき、その後に公開する。

（2）コロナ禍における市民社協の活動状況について【継続】

- 事務局 資料に沿って説明した。
- 常務理事 昨年度当初の頃はコロナがどのようなものか分からない中で職員の交代勤務等行っていたが、徐々に感染の仕組みなどが分かり、ウィズコロナということで徐々に活動が始まっている。どこに気をつければ感染しないで活動ができるか等、いろいろ模索しながら取り組んでいる。地域の皆さんも密にならないような形で少しずつイベント活動をしていると思う。この2年間の活動を振り返り、また、今後のコロナを踏まえてどのように活動していくかが課題になる。
- 委員長 資料2の2番目の「会員管理」について、どのような状況か。
- 事務局 会員比率で納入率は約80%位。納入率については、今年度から2年間会費未納者でも登録を削除せずにご案内しているため納入率は確実に下がっている。厳密に納入率がどう変わったかはまだ集計していない。

- 委員長** 会費納入の案内によって認知度を上げるということもあるだろうから、今後取り組みを進めていただきたい。
- 委員** 生活福祉資金の貸付について、学生やひとり親等の申請タイプの状況と、他市との申請件数の比較状況を教えていただきたい。
- 事務局** 資料が手元にないため感覚的なお答えになるが、区部と市町村部で申請件数を比較すると区部が多く、万単位である。申請類型としては、飲食業、派遣社員、タクシー運転手の関係が多い。また年度当初は申請件数が多かったが、その後申請件数は減少してきた。しかし、今年1月の緊急事態宣言発出により、これまで預貯金で生活を維持してきた方々が再度の緊急事態宣言で生活が耐えられなくなり、申請件数が増加している状況である。
- 委員長** 市民社協に初めて来る方もいると思うので、これを機会に市民社協を知って頂くように続けていただきたい。市民社協も、中止した事業もあるが、対応策として、Zoomの活用、密を避けての対面環境整備等に取り組んでいる。来年度以降はこれらを本格的に進めていく形になるのでないか。

3 議事

(1) 計画の振り返りについて【継続】

- 委員長** 地域福祉活動計画の振り返り作業は初めてのことであるため、今回、初めて事務局案を提示しているものである。委員から意見を頂き評価の仕方や内容をどう提示するかを固め、次回の委員会から、順次2年間の評価を進めていきたい。この委員会でしっかりと合意形成を図っていきたい。
- 事務局** 「資料3」は基本的な考え方として(案)より手前の「たたき台」になる。そのため、委員の意見を伺いながら完成させていきたい。「資料4-1」「資料4-2」は、前回委員会の意見を踏まえ修正した。「資料4-2」の修正箇所は表の中央部分の太枠部分である。この太枠部分の作成ガイドが「資料4-1」となる。
- 委員長** 基本的な考え方として、本委員会は、活動に対してダメ出しするものではなく、アドバイスしていくものである。次に、第3章と第4章の取り扱いを分けて考えたい。活動計画の第4章は全域に渡って記載されており、第3章は13地域社協のそれぞれの計画について記載している。第4章については、「資料4-1」「資料4-2」とおりステップに合わせて5段階評価としていくものである。皆さんのご意見をお願いしたい。
- 委員** この振り返りの公表方法は、紙かホームページか、また、振り返りシートをそのまま掲載するのか、ある程度編集して公表するのかなど、その辺の考え方はいかがか
- 事務局** そこまで詰め切れていない。ウェブ媒体による公表はすぐできるが、公表する内容は改めて検討が必要と考えている。
- 委員長** 事務局の考えは基本的にはウェブ媒体で公表するが、公表内容は検討ということである。個人情報編集が必要だと思うが、内容を一から作り直すのは大変なので基本的にはこのシートを公表する前提でいかがか?
- 委員** 了解した。他に、振り返りの手順だが、実施主体が複数あるときには、どの主体をピックアップするのか判断基準が難しいのではないか。「基本的な考え方」にある

ように、元気が出るような振り返りが良い。お手本になるような、進んでいる団体をピックアップして、皆の参考になるように公表したら良い。全体的にそうしていければ良いと思う。

○**委員長** 実施主体が複数ある場合は、進んでいる、又は、評価が高いと考えられる団体にフォーカスして振り返って頂く。それらを公表することにより、「こんなやり方があるんだ」と広めていくことに意味がある。ならして標準的なところを振り返るよりも、皆が良いと思う団体に振り返って頂いた方が良い。また、参考になるところが複数ある場合には、武蔵野市の中でも先駆的に取り組んでいるところを判断基準の一つにし、その団体に話を聞いてみる、というまとめでよろしいか。

○**委員** 了解。

○**委員長** 事務局はいかがか。

○**事務局** 皆様の中でご異論がなければそれで結構です。

○**委員** 「資料4-1」の5段階の評価は良くできている。地域社協の各団体が3つ位の課題を出しているが、この地域社協の課題に対してどうだったかを振り返るものだと勘違いしていた。

○**委員** 市民社協と地域社協は計画に深く関わっているが、例えば、コミュニティ協議会やボランティア団体は実施主体と言われても現実的には難しいため、市民社協が中心になって作っていくしかないのではないか。また、評価がネガティブな方向に向くのは望ましいことではないが、最もポジティブなことは「できなかったことを認めること」である。できないことを認めたときに初めて前に進むものである。なんとなくオブラートに包み、本当はやらなきゃいけないものを「一部をやりました」と濁し、よく分からない報告書を作ることは一番いけないことである。できないことは全然おかしくない。できることであればそもそも目標ではない。出来ないから頑張ろうと思うものである。「できないところ」というスタート地点を押さえ間違えると議論がおかしくなる。市民活動はビジネスではないため「できなくて当たり前」である。できなかったところから「何故できなかったのか」「どうしたらできるようになるのか」と考えていくことが一番ポジティブな議論である。そこを外してしまうと「なんとなくやって、もうちょっと頑張ろう」となる。また、振り返りの対象は、全部やるべき。また、振り返りシートの「目標達成状況への助言」と「今後の事業実施に向けた助言」の違いが分からない。「助言」という言葉よりも「一緒に話し合っただけ」という感じが良い。

○**委員長** 「助言」を置き換えるとしたらどんな言葉か。

○**委員** 「アドバイス」もあまり良いとは思わないが「アドバイス」か。

○**委員長** ここまでで固まったところは、一つ目は、「振り返りの主体は、実施主体が複数ある場合は比較的に取り組みが進んでいる団体に振り返って頂く」ということである。どの団体に振り返って頂くか悩む場合は、市民社協が全部に関係していることから、「市民社協が振り返りつつ、必要に応じて関連団体の振り返りを組み合わせる」、或いは、「組み合わせないで市民社協としての振り返りを行う」ほうが、「なぜ私のところに聞きにくるの？」と疑問視されることはないという意見である。

二つ目は、委員会のコメントの基本的なコンセプトである「こうするともっと良いですよ」といった元気になるコメントを踏まえると、「曖昧に評価しないこと」が大切ということ。いろいろと言われるのは嫌だから、「本当はできていないがとりあえず『3』」では意味がないという根本的なご指摘である。振り返るときに「『1』はいけない、ということではない」ということをしっかりと共有化しないといけない。このことは、振り返る団体にもしっかりと伝える。困っていることがあれば可能な限りアドバイスしていくという形の振り返りが大事である、ということになる。

次に、資料3の「重点項目」だが、委員は【案2】ということである。私も【案2】の方が良いと思う。後は、「助言」を「アドバイス」に置き換えることと、そもそも二つ分けることに意味があるかというところ。これは「一つのボックスにまとめる」という意見である。これらをどうするか、委員の意見を頂きたい。

まず、事務局は、委員の4つのご提案に対していかがか？

- 事務局 実施主体については、各団体が「この計画を意識して取り組んでいるか」と言えばそうではない。「市民社協が各団体を支援し推進する」ということであれば、「市民社協の支援」という視点でまとめることはできる。第4章の項目は段階として分けていたが、受け取り側が見やすい形で良い。
- 委員 地域社協については自分のところの資料を見ながらできるが、私たちは全体把握が難しいので全体となると困っていた。意見を聞いてそういう考え方で良いのかと納得した。
- 委員長 細かなところは修正しないといけないが、大きなフォーマットとしてはまずはやってみる、ということではよろしいか？
- 委員 細かいので市民社協が大変かと思う。
- 副委員長 地域社協は13団体だけど、ボランティア団体はどれを指すのか難しい。やはり市民社協が主体となって、この計画を進めていく力を持つことは大事。例えば、「ふれあい」の広報紙を発行しているが、情報を出したことによって市民がどのように捉えているか、どういう反応があるのかを確認していくことが大事ではないか。市民社協がこの計画の中でできないこともあると思うが、「出来ることはきちんとやる」ことが大事。マンパワーの問題もあると思うが、「あれこれやった結果、最終的に何をやったのか分からなくなった」ということにならないように、ある程度出来ることに絞ってきちんとやるのが大事。
- 委員長 データがあると良いということである。例えば広報について、「アンケート調査を実施してみてもどうですか」という提案は本委員会からできる。本委員会は強制力がないため、「やってみると成果をより深めることができるのではないですか」と言うことはできる。もう一つ、「できることをしっかりやってみる」ことの意味は、その場しのぎで見えなくなりやすいため、評価を受けることによって気づけることがあると思う。しかし、あまりにも辛辣な表現があると元気が出ないことになるので、元気が出るようなアドバイスを考える必要がある。市民社協や地域社協が振り返る機会があるということは非常に大事なことで委員の意見を聞いて感じた。
- 委員 ステップの中で「若い人の参加を望む」というところがあるが、PTAがリモートやQRコードを使って防災関連のアンケートを実施している。今まで考えられなか

ったことを若い人が力を発揮し中心になって取り組んでいる。「若い人の力」や「きっかけ」は大事だと感じている。

○委員長 グーグルフォームでアンケートを実施してご意見を頂くことも良いだろうし、若い人とベテラン層と一緒に計画を進めていくことは大事なことである。コロナ禍で若い人が使っているツールやノウハウが生きるということもある。今、委員が仰ったことをこのシートに乗せていくと、「若い人」や「QRコード」に「気づける」ことがある。

○委員 計画の後半に市民社協の問題点がたくさん書いてある。5段階評価は、最後に評価するのか、ステップ毎に評価していくのか、どちらか。

○委員長 事務局としてはどうお考えか？

○事務局 ステップごとに評価する考えである。

○委員長 ステップ毎に評価していくと、段階の流れが分かり提案的な意見も出しやすいかもしれない。

○委員 市民社協のことで書いてあることは分かるが、内容は分からないので、その都度質問してもよろしいか。

○委員長 分からないところがあればその都度お願いしたい。

○委員 ステップ毎に記載したシートは、次期計画策定の際の貴重な資料になる。「自己評価の理由」の欄が「振り返り」の欄と異なる文章が入るのであれば良いが、同じ文章が入るようであればこの欄は必要があるのか。最終的にシートを見たときに、「文字が多い」「内容が重複している」状況になると大切な情報が埋もれてしまいやすいため、精査してはいかがか。

また、ステップ毎に「5⇒5⇒1」となったらどう捉えていくのか。評価点数の「3」と「4」では、「達成できた」と「十分達成できた」なので、点数のつけ方が難しいため簡素化しても良いと思う。また、委員の意見を聞いて感じたことだが、「助言」「アドバイス」のところは、「委員会からの応援メッセージ」という趣旨であれば、その言葉を生かし「目標達成状況への応援メッセージ」といった表現でも良いかと思う。

○委員長 「自己評価」の項目は、「再掲になるようであれば不要」という意見である。一つ可能性があるとするれば、例えば「地域の居場所を5か所から10か所に増やしました」、自己評価は「2」で、自己評価の理由が「個所数は増えたが内容が十分に伴っていない」という場合は、内容が違ってきってしまうことがあるため、「振り返り」と「自己評価の理由」の項目は同じ内容を書かないようにする必要があり、これをどのように整理するかが非常に重要である。ここは残しておくとして、今後、同じ文言の繰り返しが続くようであれば、次回以降は無くしてしまっても良いと思う。今回は、この「自己評価の理由」の欄は慎重に取り扱うということにさせていただきたい。あと、「助言」のところは「一本化しても良いのでは」というご意見もあった。言葉も「住民や活動者への応援メッセージ」等の気の利いたフレーズに変えていただきたい。また、「助言」の二つのボックスについては、初めから分けて書く前提ではなく、フリーに書けるようにし、かつ、状況によって分けて書くことができるような取り扱いで良いと思う。

また、とても難しいのは、「自己評価」の「3」と「4」のところ。「ステップ2を踏まえ、どこまで進んでいるか」ということが一つの判断基準になるかと思う。

- 委員 5段階の評価方法でも良いのだが、もっと単純に、一本線に目盛りを0から10までつけて、「できた」「できなかった」を感覚でつける。常識で考えて真ん中は真ん中である。このシートは80項目以上あるので、基本目標の「取り組み」の8項目で評価すれば良いと思う。この8項目の中にそれぞれ細項目があるが、「目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り」を8項目のボックスに合わせて書き、「自己評価」は「ステップ」の区分に合わせて評価する。もう一つ、「自己評価の理由」ではなく、「これから何をするのか」や「今後に対する反省から含めた意見や考えやアイデア」等に、できるだけ簡素化した方が良い。あまり細かくすると総体を見失う。ファジーな計画なので、正確な評価はできない。また、団体にインタビューする日程が事前に分かれば、参加したい委員は参加できる仕組みを作れば良い。
- 委員長 二人の委員の意見を合体させると、5段階の尺度評価ではなく、0～10の尺度を置いてざっくりと評価する感じか？
- 委員 3.5があったり8があったり。その感覚が大事だと思う。案外、そういう感覚は当たっている。なまじ数字に合わせると、「もうちょっと進んでいるのに『3』」にしたりする。正確なのかと言えば正確ではないが、アバウトで良いと思う。
- 委員長 誤解が無いように確認したいが、10点評価になるイメージか。
- 委員 10点でなくて良いが、長い方が書きやすいと思う。
- 委員 「自己評価」の「5」は「目標以上に進んだ」という評価だが、「目標に到達していてもそれ以上求める」のは何か。
- 委員長 この計画はステップがあるので、その時点のステップ目標以上に次のステップに進んでいてもおかしくはない。
- 委員 「目標を達成して次につなぐ」ときは、目標を達成しているので、その時点で次の目標を考えるのかと思っていた。例えば、自分たちは満足していると思っていたが、それ以上進んでいないと駄目なのかと思った。
- 委員長 そういう感じではないかと。
- 委員 でも、そう書いてあると、やはり。
- 委員長 基本的にあまりマイナスが強く出るような評価スケールにならないようにした方が良いと思う。例えば「5」を「できた」にしてしまうと、あとの「4 3 2 1」は「できなかった」という評価になってしまう。「すごくできた」のであれば、それが駄目だということではなく「すごくできているので、もっとこういう感じでやるとさらに良いですよ」というようなメッセージを込められるかということ。確かに「5」が並んだ方が気持ち良いが、そこをどう考えるか。委員のご意見にもあったように、「できてなかったものがあっても、それを受け止めて次の一手を考えられるようになった方が良い」という考えもある。評価スケールをどう設定するかは正直難しい。最終的には事務局でつけやすい形で作って頂くのが一番良いかと。
- 事務局 前回のご意見では、10点や100点で刻みが細かかった。一般的に考えて、「5段階で3が標準点」として両サイドに振るような考えが点数をつけやすいかと考えた。他区市の状況を見ると、約半数が点数やA B C等の数値的評価（定量的評価）であり、

残りの半数は文章評価（定性的評価）であった。数値化している中では3～4段階が見受けられた。段階状況は、「A：達成している」「B：概ね達成している」「C：一部達成している、十分達成していないが着手している」「D：全く手つかず」という4段階評価があった。資料としてお示していないが、「3」「4」で評価が難しいということであれば、議論の中に入れて頂ければと思う。

○委員長 この委員会で出ている意見としては、「つけやすさも非常に大事だ」ということ。高い理想でスケールを作ってみても、「つけられません」「どうつけていいのか分からない」と悩むようでは困るため、最終的には事務局がつけやすいもので考えて良い。結果的に「つけにくかった」となる可能性もある。ここは一案だが、最終的には「こうしました」という結論を固めて、固めたものに基づいて次回の委員会で評価結果が書き込まれた資料が出てくると思う。次の委員会は8月頃なので、評価シート（案）ができた段階で、委員会開催の前に少しお目通しいただき、何かあれば事務局のほうに、また、事務局で悩むようなご意見があれば、私と事務局、状況によっては副委員長も加わり、正副委員長預かりとさせていただき、最終的にシートを確定させるという結論でよろしいか？

一つ分ったこととして、「事務局がつけやすいように」「活動団体が評価しやすいように」ということが大きな意見だったと思う。今ここでは、5段階、10段階、ABCとか固められないと思う。事務局で検討いただくということにしたい。

また、「重点的な取り組み」については、資料3に「1案」「2案」とあるが、「2案」でよろしいか。段階的なステップは決めていないが、ステップのタイミングに合わせて段階的に振り返る。点数は必要があればつけても良いが、基本的にはつけない。それぞれの「基本目標の柱」の部分が集まって「重点的取り組み」となっている計画構成であるので、途中で何もしないで最終段階でまとめて総括するということはやめて、「2案」の方向性で検討する方向でお願いしたい。

もう一点確認したことは、第3章に関することである。第3章はそれぞれの地域社協の活動計画になっている。計画の94頁にも、「推進委員会の振り返りの対象とはしない」と書いてあるため、これを踏襲し「推進委員会からは何か意見を言うということとはしない」というのが「案1」になる。「案2」は、「そうは言っても、第三者の目に触れ、そこから意見を頂くことは、決してマイナスのことではない。『こういうやり方でやったらもっと良いのではないか』という意見を頂いても良い」というのが「案2」である。ただそのときに、「どうやって振り返ったら良いのか？」という問合せが出る可能性がある。振り返りシート（案）を作って、それを元に「こういうふうに考えらるともっと取り組みやすくなるのではないか」「ここは良く取り組まれているので、さらに進めてください」といったようなアドバイスをする流れになると思う。「案2」は「2の1」と「2の2」の2つがあり、「2の1」は、「地域社協から推進委員会に要望があったところだけを対象にする」もので、「2の2」は、「13地域の全てを対象にする」というものである。これはどうするか。

もともと「案1」は、「推進委員会としては、地域社協の振り返りを見るかもしれないけれど、意見はしない」もの。「案2」は、「2の1」として「意見はするけれど、

希望のところだけにする」もの。「2の2」として「13地域全てのところにアドバイスをする」というものを、今日の委員会では確実に固めたいと思う。

○委員 地域社協が立ち上がって長いところでは30年、短いところでも20年経っている。この長い間でだんだんと地域差が出てきたと思う。ここで一旦立ち止まって、何が問題点なのかを整理して進まない、この先地域社協が継続できるのか将来を心配している。特に拠点もない。拠点があっても発展するかどうか分からないところもあるため、是非、どの地域社協も一旦立ち止まって見つめ直す良いチャンスだと思う。「案2」で取り組んでいかないと置いていかれる地域社協が出るのではないかと心配している。

○委員 私も、「案2」の方で進めていくのも良いと思う。

○委員 「推進委員会による振り返りの対象とはせず」と言っているので、推進委員会の方から「振り返ってください」ということは言わない方が良いと思う。ただ、各地域社協の取り組みを進めていく上で、「事務局から」では抵抗が出るのであれば「推進委員会」が表に出る以外ないと思う。出来れば、事務局からすすめていただきたい。私たちは、「各地域社協の取り組み状況を知りたい」という側面もあるが、「行わない」と言っておきながら、推進委員会から「これをやってください」というのは、「ちょっと話が違うのでは」ということになる。「自分たちでやる必要がある」ということであれば全然問題のないことだが、慎重にした方が良いと思う。

それからもう一つは、「2年毎か」ということ。この取り組みというのは、「地域社協が出している計画の取り組みについて振り返りや見直しをする」ということだと思う。それに対してどこまで進んでいるかという振り返りは行ったほうが良いが、各地域社協によって目標や取り組み内容が異なるため、2年毎は結構大変かと思う。中間の3年位で行い、計画期間6年の間で2回位が良いと思った。

参考意見として、コミセンの場合は自己点検評価を毎年行っている。状況がそれほど変わっているわけではないため、毎年行う必要はあるのかと思っている。2年に1回位が良いかと思う。現場の人としてはどう思うか。

○委員 今の話のとおりだと思う。「書いていないけれど報告するのか?」「何故?」という話になる。ただ、計画を立てた以上は「定期的に見直す」ことは最低限必要なこと。レベルの高低はいつでも良いことで、必ず「見直し」という動作が大事だと思う。市民社協は地域社協と関係があるため、市民社協が、「作りなさい」と指導し、「作ったものを市民社協に出してください」と。我々の関わりとしてはそれを見せていただくのが良い。むしろ、理想だと思うが、全員が参加出来ないにしても、地域社協で報告会ではないが、現地に行って地域社協の悩みとや愚痴を聞くという場を作った方が良いのではないかと。資料を見て評価がどうのというよりも、現地に行って、「実はこういう問題がある」「それについてはこんなことやっている人がいますよ」という形にしていくのが良い。市民社協に報告するのか、推進委員会に報告するのか、同じではないか、と意見はあるかも知れないが、制度の組み立てからして「推進委員会に報告する」というのはおかしいと思う。

○委員長 考え方やスタンス等をどうするかということがあがるが、委員の話を伺って、「どうするかを我々が決めることではない」と思った。つまり、地域社協に決めてい

ただいたほうが良いと思った。地域社協の代表者会議に諮っていただき、我々の集約した意見は地域社協では集約できない。つまり、二人の委員は「案1」、他の二人の委員は「案2」で、どちらも重要だと思う。ここで「どう決めていくか」ではなく、「こういう意見が推進委員会に出ている」ということを代表者会議で伝えていただいて良いと思う。ただ、我々は「地域社協の活動が進めば良い」と願っているので、我々をどう使ってもらえるかという議論なのだと思う。「手上げ方式」なのか、「何かフォーマットを使って足並みを揃えて作って推進委員会に出す」のか、「うちは出したくないからいいです」なのか、そういったところを地域社協に議論していただいたほうが良いと思う。まず地域社協で考えて決めていただいて、我々は後で関わり方を考えて決めていく方が良い。委員の皆様のご意見を纏めるとそのようになるが、その方向性で事務局はよろしいか？

○委員 やるところとやらないところが出ることは絶対にやめて欲しい。「やらないならやらない、やるならやる」にして欲しい。それと、委員が仰ったように、皆さんで3年目に集まって、実際にどこまで到達したか話し合い、その結果を取り纏めて、地域の方に配る等、何かしら取り組んで欲しい。実際に活動している身としては強く思う。

○委員長 是非そういった意見を地域社協の会議で提案頂けると良いと思う。そこを最終的に我々が決めることではないのだと思う。第4次活動計画の中で何故あのように書かれているかについては、今まで出てきた意見を集約すると、地域社協の方から「評価についてはあのように書いた方が良さそう」という判断があったと推測される。ただ、一方では、二人の委員の意見のように、「意見をもらったり、随分差が出てきている」ということや、「悩んでいる」ということもあるので、そういった部分をこの委員会でサポートできれば「決してマイナスにはならないだろう」ということもあり「案2」も出させていただいた。もともと計画書に書いてあったのは「案1」であったが、そこを地域社協に戻して検討いただく形にさせていただきたいと思うがよろしいか。

<特に異論はなし>

○委員長 では、第3章の取扱いについては、その形にしたい。

「4 事務局からの連絡事項等」と「5 次回の日程」について

○事務局 来年度2回の開催を予定している。第1回目は8月か9月、第2回目は11月頃に開催できればと考えている。日程については、近くなったら調整したい。振り返りの内容については、本日の活発な議論を踏まえて、予め書面等でお示しできているので、よろしく願いしたい。

○委員長 次回以降が本格的にご意見を頂く形になるかと思う。次回8月9月に参集いただくようになると思うのでよろしく願いしたい。これで第2回第活動計画の推進委員会を終了する。

(午後0時2分 閉会)